

平成 30 年度教育研究計画

三原市立鷺浦小学校

1. 学校教育目標

郷土を愛し、自らの役割を見つけ、全力で伸びようとする児童の育成

ミッション

- 「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成
- ・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着させる学校
 - ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校
 - ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校

2. 研究主題

「初歩的な英語を活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」
～学んだ英語に十分慣れ親しみ、やり取りの幅を広げる取組を通して～

研究教科 外国語活動

3. 主題設定の理由

平成 26 年 10 月に文部科学省から出された『今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～』では、今般の英語教育改革の背景として社会における急速なグローバル化の進展という社会的な背景と、これまでの英語教育改革の進展や課題を踏まえた更なる取組の充実の 2 点を挙げている。

グローバル化の進展の中での英語力の重要性

○ 社会の急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって極めて重要な問題。

これからは、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。(略) 今後の英語教育改革において、その基礎的・基本的な知識・技能とそれらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することは、児童生徒の将来的な可能性の広がりのために欠かせない。

(略) 我が国の歴史・文化等の教養とともに、思考力・判断力・表現力等を備えることにより、情報や考えなどを積極的に発信し、相手とのコミュニケーションができなければならない。(略)

これまでの英語教育の改革を経た更なる改善

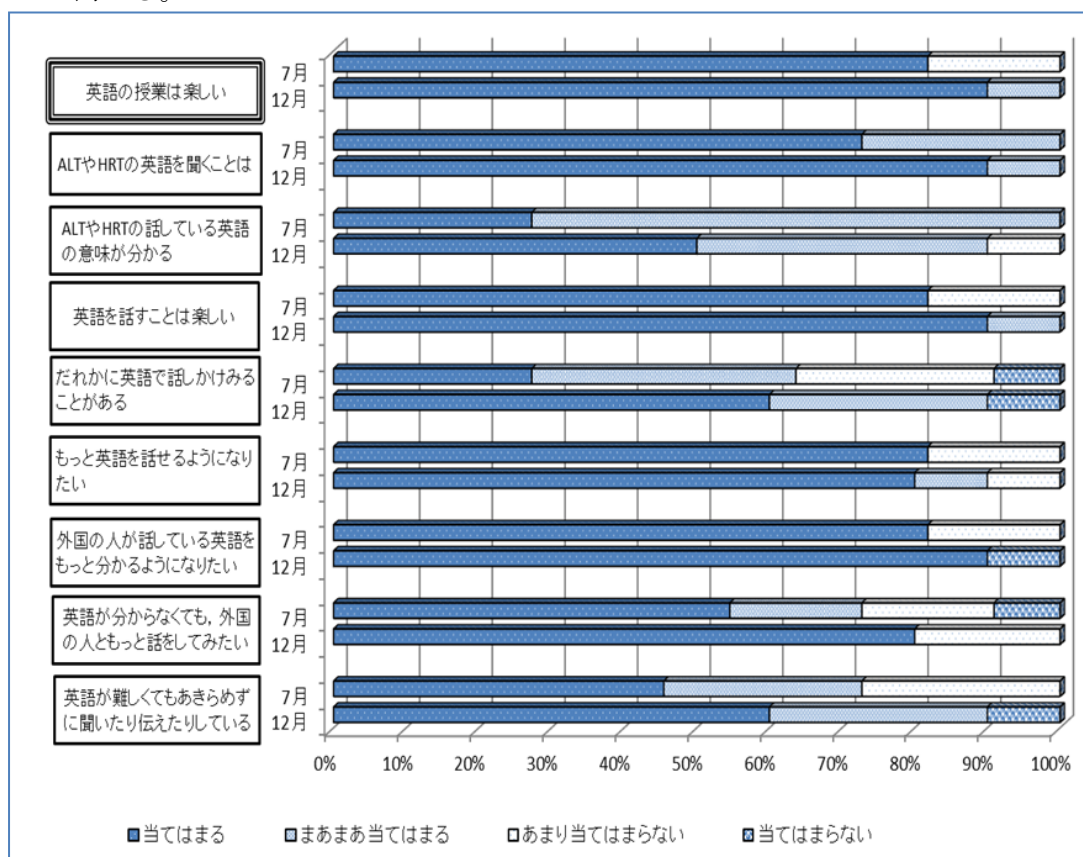
○ 英語教育の充実に当たり、「ことば」への関心を高める工夫によってさらに外国語の効果的運用に必要な能力を伸ばすという視点が重要である。

本校では、平成 28 年度より英語の教科化を見据えて先行実施してきた教科型の活動と、ALT の週 4 日配置を生かし、英語の学習以外の学校生活の場面での会話の必然性をつくり、実際に初歩的な英語を使っての会話ができる姿を求めてきた。昨年度の取組の成果と課題としては、次の通りである。

《成果》

①英語活動への肯定的評価

英語の時間の授業を楽しいとする肯定的評価は、12 月の児童アンケートでは 100% という結果であり、その理由として「英語でゲームをしたり遊んだりできる」というだけでなく、「話が伝わる」「英語で伝わる」ことが楽しいからとの理由を挙げている。また、「聞くこと」や「話すこと」「関心・意欲・態度」についての肯定的回答も高く、意味とつながらながら英語を聞き取る児童や意欲的に英語で伝えようとしている児童が増加していることが伺える。



②英会話パスポートへの取組

ALT と連携し、英会話パスポートに取り組むことができた。休憩時間やモジュールタイム等、ALT と初歩的な英語や学習した会話のフレーズを使ってやりとりをする児童が増えてきている。また、使いたい単語やフレーズについて ALT に質問をする場面がみられるようになった。

③英検ジュニアの取組

全校児童が英検ジュニアにチャレンジするという目標を設定したり、ICT 環境を整えたりすることで、ICT を積極的に英語習得に取り組む姿が増えると共に、基本的な英語に慣れ親しむことができた。

④豊かなコミュニケーション活動となる場の設定

教科型においては、英会話の必然をつくる場を全単元に設定することができた。また、

活動型においても、外国人との交流機会を設定し学んだ表現を活用しながらコミュニケーションを図る場の設定を行うことができた。

⑤積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の姿

日頃から ALT と英語でスムーズにやりとりをしている児童の姿が見られようになった。また、初対面の人などに「英語で伝える」実の場を設定したことで、相手に正確にそして積極的に伝えようとしたり、表現している内容を聞き取ろうとしたりする姿につなげることができた。

〈課題〉

- ・単元学習時に、今自分がやりとりしている表現がどういう意味をもっているかを必然ある場面設定で慣れ親しませると同時に、他にどんな時に使えるかについても認識させる機会が不足していた。
- ・英会話の必然を生み出すコミュニケーション活動について、できる限り自然な会話になるような場面に近づけたり、児童の経験を生かしたものや児童同士の情報のずれを生み出し意欲的にやりとりをさせたりする等の取組の工夫が足りなかった。また、活動型における交流の時期やその内容について、綿密な計画と確認を行い、必然性をもたせる必要があった。
- ・振り返りシートの活用において、相手とのやりとりに焦点化した項目がなかったことが、漠然とした振り返りをさせることになった。

平成29年度の課題から、次のことを継続して取り組む。

◎ 学んだ表現を活用する機会をさらに意図的に仕組み増やすこと。

- ・モジュールタイムや英会話パスポート取組時、また、パフォーマンス評価時の話題設定を工夫して、学んだ表現を活用させる機会を意図的に仕組み、学んだ表現が使える場の広がりを実感させ、積極的に活用していこうとする態度とつなげていく。

◎ 英語活動の単元指導計画段階で、的確なコミュニケーション活動の場を設定すること。

- ・段階的な仕掛けや指導の工夫を行っていくことで、学んだ表現の活用を促したり、何とかしてコミュニケーションを図ろうとする児童の姿（ジェスチャー）につなげたりすることができると考える。

◎ 課題と評価の一体化を図った振り返りシートを作成し、活用すること。

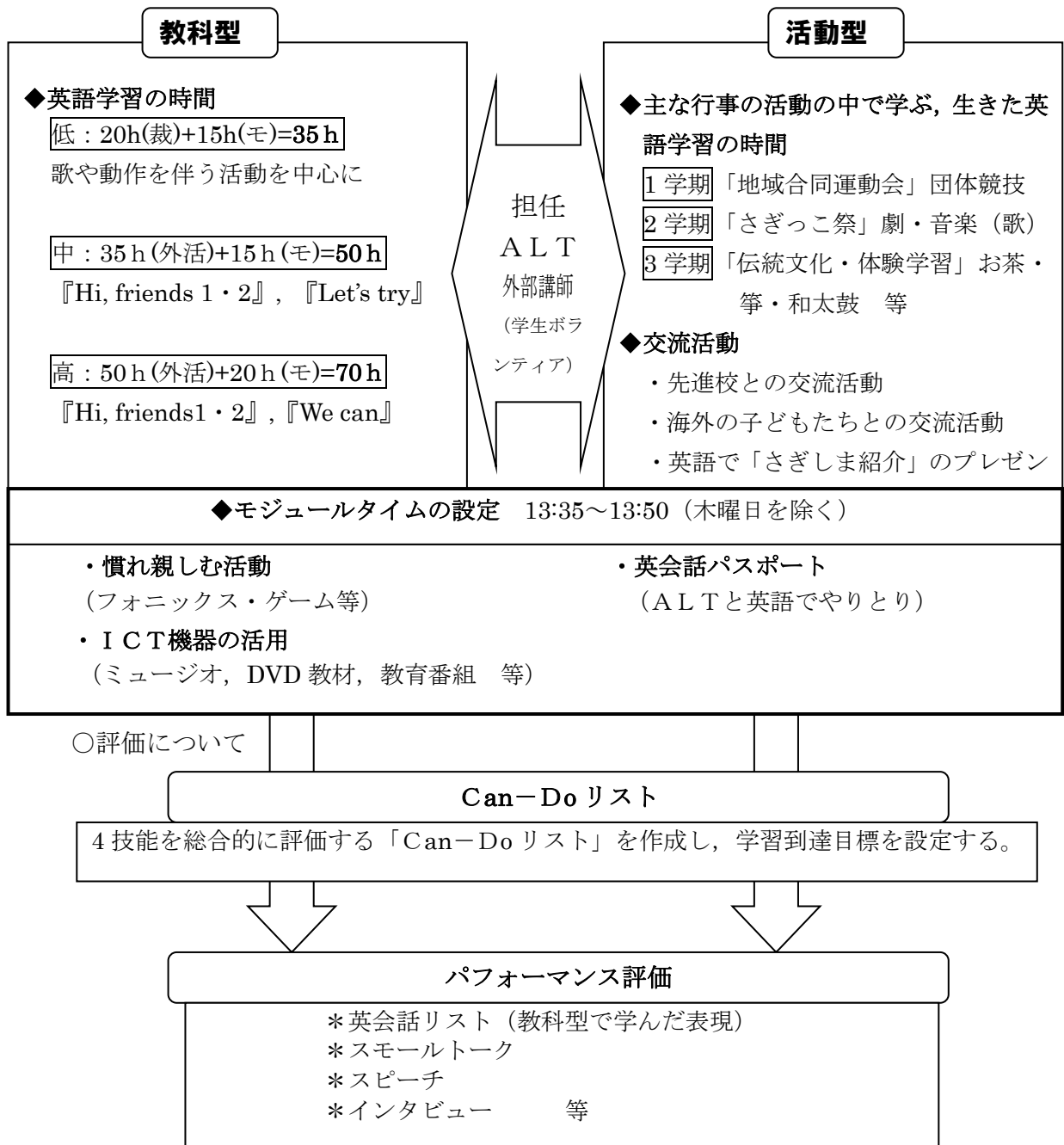
- ・振り返りシートにおいて、単元学習計画段階で明確にした各時間のめあてと連動させながら、相手とのやりとりを児童に記述させる項目を設け、児童自身がめあてを常に意識し、学習をふり返ることができるように改善をしていく。

また、新学習指導要領に円滑に移行するため、平成30年度からの2年間は、「外国語科」「外国語活動」の内容のうち、小学校高学年や中学校との接続の観点から指導する内容を加えていくことになる。そのため、本校では、新学習指導要領で求められる指導内容と昨年度までの取組で目指してきた児童像の軸がずれないように見直ししながら、取組を進めている。

以上のことから、今年度の研究主題を「初歩的な英語を活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」副題を「～学んだ英語に十分に慣れ親しみ、やり取りの幅を広げる取組を通して～」と設定した。

4. 研究の概要

<グラウンドデザイン>



5. 研究の仮説

相手とやりとりする必然性があり, さらに会話を継続させるコミュニケーション活動の場を設定すれば, 児童は慣れ親しんだ英語表現を選びながら活用し, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができるであろう。

6. 研究内容

I 教育計画

- (1) 新指導要領に円滑に移行するための年間指導計画の見直しと作成
 - 低学年⇒裁量の時間の活用
 - 中学年⇒外国語活動
 - 高学年⇒外国語
- (2) 低・中・高学年の接続の観点を考慮した Can-Do リストの見直しと作成

II 指導過程の工夫

- (1) 学習する英語表現に十分慣れ親しませる工夫
- (2) 児童が「会話を継続させる」ことができるコミュニケーション活動の工夫
- (3) 個の指導に活かせる評価の在り方
 - ・評価シート（児童振り返りシート）
 - ・パフォーマンステスト（技能・コミュニケーション活動）

III モジュール活動の工夫

- (1) 英語表現に慣れ親しむ活動の充実
 - ・歌
 - ・ゲーム, クイズ
 - ・絵本の読み聞かせ
 - ・外国語活動, 外国語の学習における慣れ親しむ活動の補充
 - ・『English treasure』の取組
- (2) 学んだ英語表現を活用する活動
 - ・英会話パスポート
 - ・スモールトーク
 - ・異学年交流 等
- (3) 新しい英単語やフレーズとの出会い

○児童が慣れ親しんだ英語表現について気付いたことや発見を自分なりに工夫しながらためていく取組

IV 交流活動の工夫

- (1) 外国人との交流活動
- (2) 海外の学校や人との交流

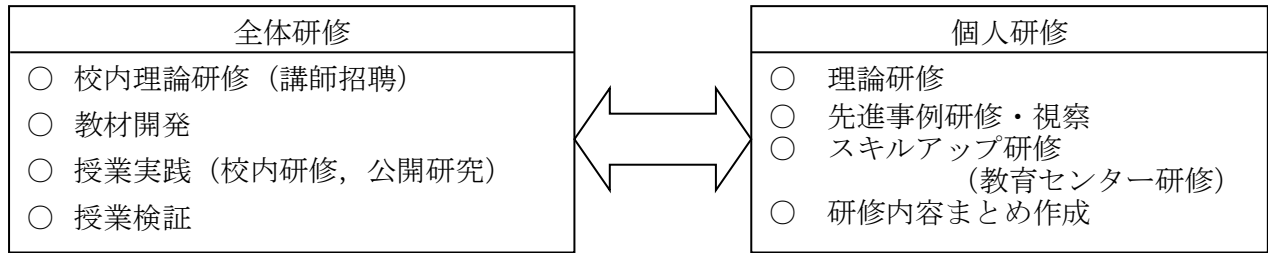
【具体的な取組】

<p>着させる) (1) 英語表現に十分に慣れ親しませる(定 活動の取組</p>	<p>○慣れ親しませる機会の工夫と充実 (教科型, モジュールタイム)</p>	<p>【低学年】 表現歌や動作を伴う活動, ゲーム等 で楽しみながら定着を図る。 (あいさつ, 名前, 年齢, 身近な単語や 簡単で基本的なやりとりの表現)</p> <p>【中学年】 絵本・視聴覚教材等の活用や外国語活 動の学習の指導の工夫等で定着を図る。 (日常生活の活動を表す表現)</p> <p>【高学年】 ALT とのやりとり・視聴覚教材の 活用や外国語活動(外国語科)の学習の 指導の工夫等で定着を図る。 (自分の言いたいことを相手に伝える 表現)</p>
<p>定の工夫 (2) 会話を継続させる場の設</p>	<p>○児童が相手や場に応じて「会話を継続させる」ことができるコミュニケーション活動の場の設定の工夫 (教科型, 活動型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール(コミュニケーション活動の場)を見通した単元計画や活動計画, 指導案の作成
	<p>○ALT と会話をする機会の充実 (教科型, 活動型, モジュールタイム)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話パスポートの活用(ALT と会話をする場の設定の工夫)

7. 検証の指標と目標値

内 容	検証の指標	達成目標
<p>(1) 英語表現に十分に慣れ親しませる活動の工夫</p>	<p>◇児童アンケート (7月 12月)</p> <p>◇パフォーマンス評価 (英会話リスト)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語表現に慣れ親しむことへの肯定的評価(90%) ・低・中・高学年で身につけさせたい英語や英語表現の習得(80%以上)
<p>(2) 会話を継続させる場の設定の工夫</p>	<p>◇授業分析 (7月 12月)</p> <p>◇評価シート(児童振り返りシート)</p> <p>◇児童の行動観察(ビデオ撮影の記録)</p> <p>◇英会話パスポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会話を継続しようとする児童の割合(80%) * 学んだ英語や表現を使ってやりとりしている児童の姿の分析 * どう表現すればよいのか困ってもなんとかして会話を継続させようとする児童 ・ALT と会話しようとしている児童(80%) * 英会話パスポートに取り組む姿 * 英会話の児童の内容で分析

8. 研究推進体制



研究主任がリーダーとなり，全員で推進していく。企画・提案・分析・まとめは，研究主任が中心となっていく。また，三原市立第二中学校ブロックの教育研究会や三原市教育研究協議会などを生かし，他校と研究の交流を図る。

9. 講師

広島大学

松宮 奈賀子 准教授

三原市教育委員会

村上 直子 指導主事

10. 研究計画

月	研究内容
4	英会話能力の育成についての「グランドデザイン」 研究テーマ検討及び決定 研究内容，具体的推進方法の検討 研究授業計画立案 研究方法について
5	理論研修～ 指導案の書き方・評価など～ 事前指導 事前研究 3・4年生担任 栗栖 『国語科』 5年生担任 富本 『外国語活動』
6	授業研究 3・4年生担任 栗栖 『国語科』 6月20日 5年生担任 富本 『外国語活動』 6月27日
7	1学期の授業のまとめ・分析と課題
8	理論研修（評価の在り方について） Can-Do リスト・パフォーマンステストの作成，修正 アンケートの分析 指導案作成・指導案検討（訪問指導）
9	指導案の完成要項作成
10	自主公開研究会 3・4年生担任 栗栖 『外国語活動』 5年生担任 富本 『外国語活動』
11	理論研修 ニュージーランド交流 研究のまとめと分析
12	理論研修 2学期の授業のまとめ・分析と課題

	アンケートの分析
1	研究のまとめ作成
2	次年度の研究についての方向性